

ORCA (**O**nline **R**esearch **C**ontrol system **A**rchitecture)

設問クォータの設定



もくじ

設問クォータ	3
設問クォータの概念	3
設問クォータの手順	4
弊社推奨の設問クォータ設定	4
1. ORCA Editor にて設問クォータ用の選択肢設問を設定	5
2. ORCA Editor にて設問クォータを利用した終了ジャンプを設定	7
3. ORCA Core にて設問クォータを設定	9
4. テスト回答をする	13

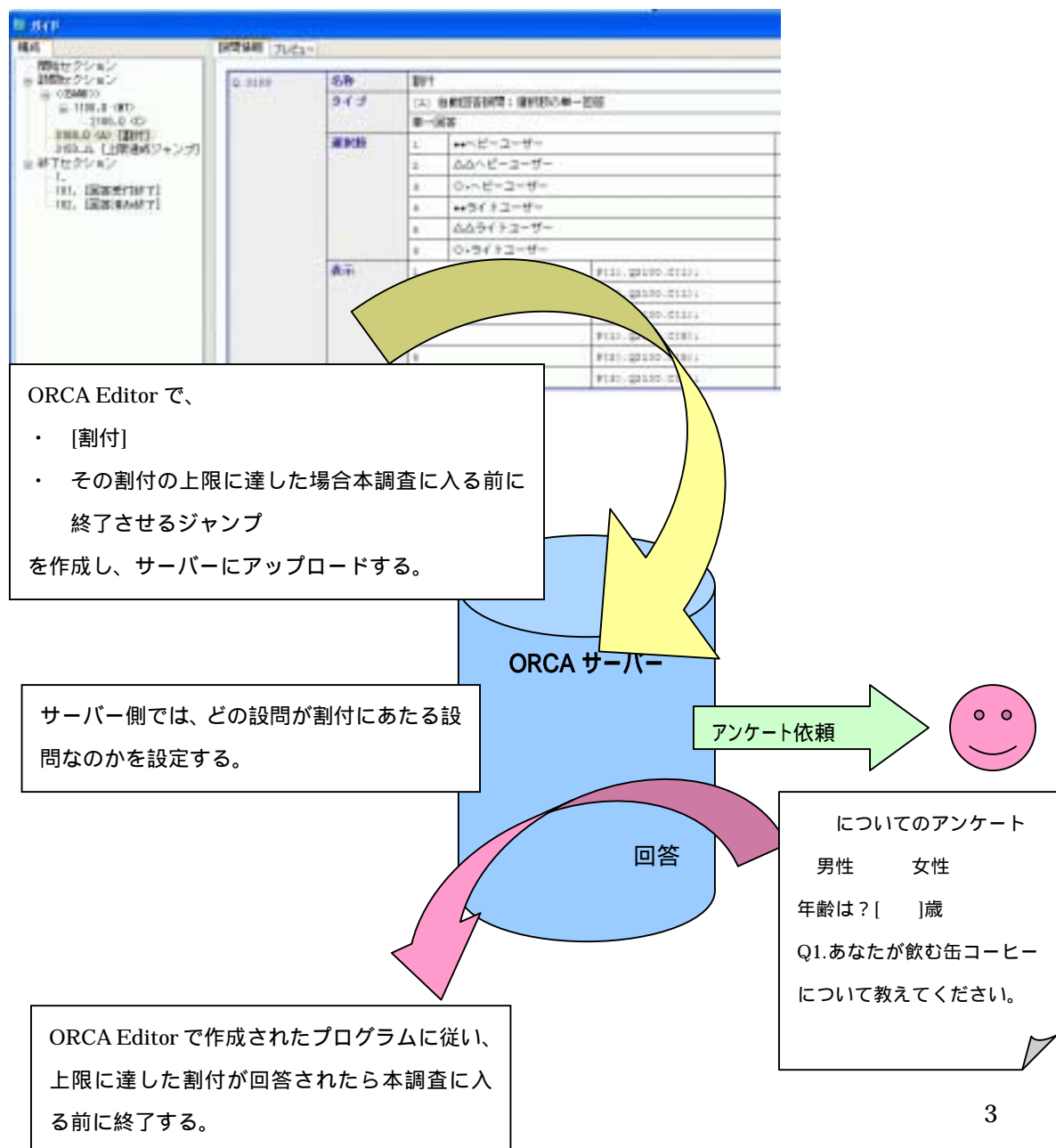
設問クォータ

設問クォータの概念

設問クォータとは、回答内容による回収上限のことをさします。

設問クォータ作成とは、回答内容による回収上限を設け、上限に達したら回収を打ち切るための設定です。

設問クォータ設定の概念図



設問クォータの手順

一般的な設問クォータ作成の手順は以下のとおりです。

1. ORCA Editor にて設問クォータ用の選択肢設問を設定
2. ORCA Editor にて設問クォータを利用した終了ジャンプを設定
3. ORCA Core にて設問クォータを設定
4. テストを行い設問クォータがカウントされることと、終了ジャンプが機能することを確認する

弊社推奨の設問クォータ設定

以下のような条件ごとにサンプルを集めたいとします。

条件ごとにサンプル数は異なります。

・ 男 20 代	1 0 サンプル
・ 男 30 代	2 0 サンプル
・ 男 40 代	2 0 サンプル
・ 男 50 代 以上	1 0 サンプル
・ 女 20 代	1 0 サンプル
・ 女 30 代	2 0 サンプル
・ 女 40 代	2 0 サンプル
・ 女 50 代 以上	1 0 サンプル

スペックには、以下のように性別と年齢を問う設問、Q1000 と Q2000 が設定されているものとします。

Q1000(SA)	1 : 男性 2 : 女性
Q2000(FA)	数値回答

ORCA Core で使用する設問クォータ用の設問を作成します。

今回の条件では、回答者が当てはまる条件は一つしかないので自動回答から選択肢の単一回答を選択します。ORCA Script (単一回答) ではありません。

また、設問二つ(Q1000 と Q2000)を判断した後でしか設問クォータ用の判定は行えないので、設問クォータ用の設問は Q2000 以降で作成します。

1. ORCA Editorにて設問クォータ用の選択肢設問を設定

今回の例では Q3000 として、自動回答設問の選択肢の単一回答を選択し、以下のように ORCA Script を選択肢ごとに設定します。

設問種別: 自動回答設問 [A]

選択肢の単一回答

名称	設問																
Q.3000	[A] 自動回答設問: 選択肢の単一回答																
タイプ	単一回答																
選択肢	<table border="1"> <tbody> <tr><td>1</td><td>男20代</td></tr> <tr><td>2</td><td>男30代</td></tr> <tr><td>3</td><td>男40代</td></tr> <tr><td>4</td><td>男50代 以上</td></tr> <tr><td>5</td><td>女20代</td></tr> <tr><td>6</td><td>女30代</td></tr> <tr><td>7</td><td>女40代</td></tr> <tr><td>8</td><td>女50代 以上</td></tr> </tbody> </table>	1	男20代	2	男30代	3	男40代	4	男50代 以上	5	女20代	6	女30代	7	女40代	8	女50代 以上
1	男20代																
2	男30代																
3	男40代																
4	男50代 以上																
5	女20代																
6	女30代																
7	女40代																
8	女50代 以上																
表示	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Q1000.C[1] & Q2000.N >= 20 & Q2000.N < 30;</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Q1000.C[1] & Q2000.N >= 30 & Q2000.N < 40;</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Q1000.C[1] & Q2000.N >= 40 & Q2000.N < 50;</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Q1000.C[1] & Q2000.N >= 50;</td> </tr> </tbody> </table>	1	Q1000.C[1] & Q2000.N >= 20 & Q2000.N < 30;	2	Q1000.C[1] & Q2000.N >= 30 & Q2000.N < 40;	3	Q1000.C[1] & Q2000.N >= 40 & Q2000.N < 50;	4	Q1000.C[1] & Q2000.N >= 50;								
1	Q1000.C[1] & Q2000.N >= 20 & Q2000.N < 30;																
2	Q1000.C[1] & Q2000.N >= 30 & Q2000.N < 40;																
3	Q1000.C[1] & Q2000.N >= 40 & Q2000.N < 50;																
4	Q1000.C[1] & Q2000.N >= 50;																

No.	~No.	全設問	全設問	選択肢	排他	ORCA Script
1				男20代	<input type="checkbox"/>	Q1000.C[1] & Q2000.N >= 20 & Q2000.N < 30;
2				男30代	<input type="checkbox"/>	Q1000.C[1] & Q2000.N >= 30 & Q2000.N < 40;
3				男40代	<input type="checkbox"/>	Q1000.C[1] & Q2000.N >= 40 & Q2000.N < 50;
4				男50代 以上	<input type="checkbox"/>	Q1000.C[1] & Q2000.N >= 50;
5				女20代	<input type="checkbox"/>	Q1000.C[2] & Q2000.N >= 20 & Q2000.N < 30;
6				女30代	<input type="checkbox"/>	Q1000.C[2] & Q2000.N >= 30 & Q2000.N < 40;
7				女40代	<input type="checkbox"/>	Q1000.C[2] & Q2000.N >= 40 & Q2000.N < 50;
8				女50代 以上	<input type="checkbox"/>	Q1000.C[2] & Q2000.N >= 50;

上記の選択肢 1 (男 20 代) の ORCA Script を説明します。

Q1000.C[1] … 男性 (Q1000 で選択肢番号 1)
& … で
Q2000.N >=20 … 20 歳以上
& … で } Q2000 での回答範囲
Q2000.N < 30 … 30 歳に満たない

Q1000 で選択肢 1、Q2000 で 24 と回答した場合は、
Q3000 では自動的に選択肢 1 として登録されます。

クォータ回収状況を確認する際、クォータの上限数で止めたい場合には、この設問 (Q3000) をコピーして貼り付けます。コピーした設問は設問番号を Q4000 にします。(設問内容が同じものが 2 つ設定されたことになります。)

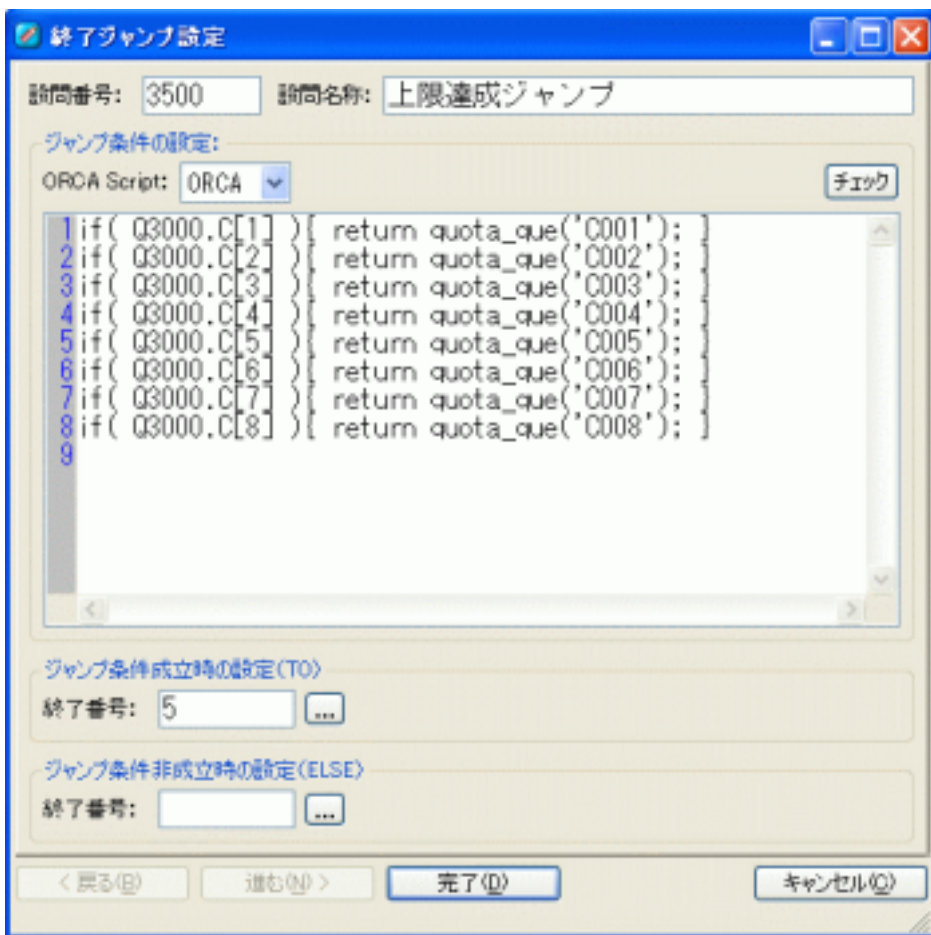
クォータの上限に関わらずセルごとの回収数をみたい場合には、コピー (Q4000) は必要なく、Q3000 のみで構いません。

2. ORCA Editorにて設問クォータを利用した終了ジャンプを設定

クォータを設定したら、Q3500 に終了ジャンプを作成します。

あらかじめ、終了セクションに終了番号 5 (上限に達した場合の終了先) を作成します。

終了ジャンプは以下のように作成します。



上記 ORCA Script 欄の記載

```
if( Q3000.C[1] ){ return quota_que('C001'); }
if( Q3000.C[2] ){ return quota_que('C002'); }
if( Q3000.C[3] ){ return quota_que('C003'); }
if( Q3000.C[4] ){ return quota_que('C004'); }
if( Q3000.C[5] ){ return quota_que('C005'); }
if( Q3000.C[6] ){ return quota_que('C006'); }
if( Q3000.C[7] ){ return quota_que('C007'); }
if( Q3000.C[8] ){ return quota_que('C008'); }
```

ジャンプ条件の設定 (ORCA Script) には、Q3000 の選択肢ごとに設定されたクォータ ID (次頁から作成する C001 部分) を、ORCA Core へチェックしに行くスクリプトを記述します。

ORCA Core には、このあとの 3. で設定を行います。

```
if( Q3000.C[1] ){ return quota_que('C001'); } 部分を説明します。
```

```
if( Q3000.C[1] ) … Q3000 の選択肢 1 を選んだとき、
```

```
return quota_que('C001') … 設問クォータ C001 の成立・不成立を返す
```

成立 (上限値達成) した場合は、ジャンプ条件成立時の設定をした終了番号 5 にジャンプし、回答を終了します。

不成立の場合は、終了番号の記述がないため、回答を続けます。

3. ORCA Core にて設問クォータを設定

ORCA Core にジョブを作成し、スペックを登録します。

登録したら、ジョブトップのクイックアクセスから設問クォータをクリックします。

クイックアクセス	集計情報	単純集計	自由回答	ダウンロード
	クォータ情報	表示	クォータ状況	
		設定	カテゴリクォータ	設問クォータ
	アクセス状況	サマリ		

1. で作成したクォータ用の設問 (Q3000 または Q4000) に対応する設問クォータを以下のように作成します。

クォータ編集	カテゴリ	設問	終了
--------	----------------------	--------------------	--------------------

設問クォータ					
	設問クォータID	名称	回収予定数	クォータ数	スクリプト
<input type="checkbox"/>	C001	男 20代	10	10	Q4000.C011: <input type="text" value=""/> <input type="button" value="入力"/>
<input type="checkbox"/>	C002	男 30代	20	20	Q4000.C012: <input type="text" value=""/> <input type="button" value="入力"/>
<input type="checkbox"/>	C003	男 40代	20	20	Q4000.C013: <input type="text" value=""/> <input type="button" value="入力"/>
<input type="checkbox"/>	C004	男 50代以上	10	10	Q4000.C014: <input type="text" value=""/> <input type="button" value="入力"/>
<input type="checkbox"/>	C005	女 20代	10	10	Q4000.C015: <input type="text" value=""/> <input type="button" value="入力"/>

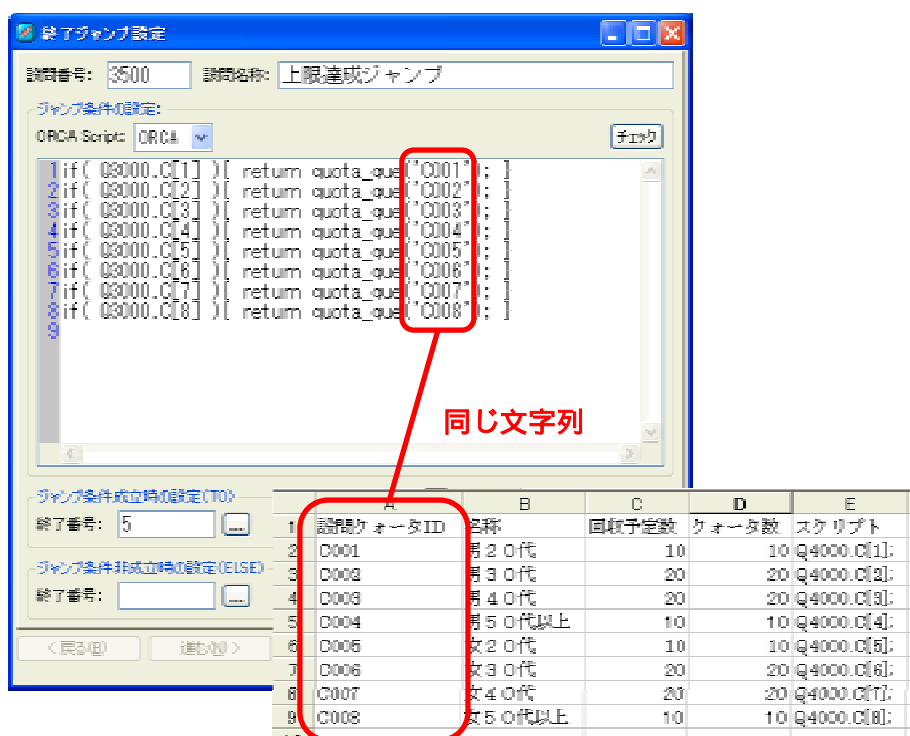
項目	説明
設問クォータ ID	任意の ID を設定します。
名称	名称を設定します。
回収予定数	回収予定数を設定します。値としては回収率をみるための母数となります。
クォータ数	設定された設問クォータのクォータ数を設定します。 ORCA Script を使用することで、クォータ数に達したかどうかを判定できます。
スクリプト	設問クォータの条件となる、ORCA Script を記述します。

設問クォータ ID は 2. で作成した Editor のジャンプ条件で設定したクォータ ID と同じもの
 ここでは、ORCA Script は 1. で作成した ORCA Editor の Q4000 (Q3000 をコピーした設問) と対
 応するように作成します。

Q4000 の選択肢 1 は男 2 0 代となりますので、C001 の ORCA Script は Q4000.C[1]; とした場合
 です。以下が ORCA Core で設定する内容です。

設問クォータ ID	名称	回収予定数	クォータ数	スクリプト
C001	男 2 0 代	10	10	Q4000.C[1];
C002	男 3 0 代	20	20	Q4000.C[2];
C003	男 4 0 代	20	20	Q4000.C[3];
C004	男 5 0 代以上	10	10	Q4000.C[4];
C005	女 2 0 代	10	10	Q4000.C[5];
C006	女 3 0 代	20	20	Q4000.C[6];
C007	女 4 0 代	20	20	Q4000.C[7];
C008	女 5 0 代以上	10	10	Q4000.C[8];

上記内容を Excel に貼り付けてアップロードすることも出来ます。(ヘッダも含まます)

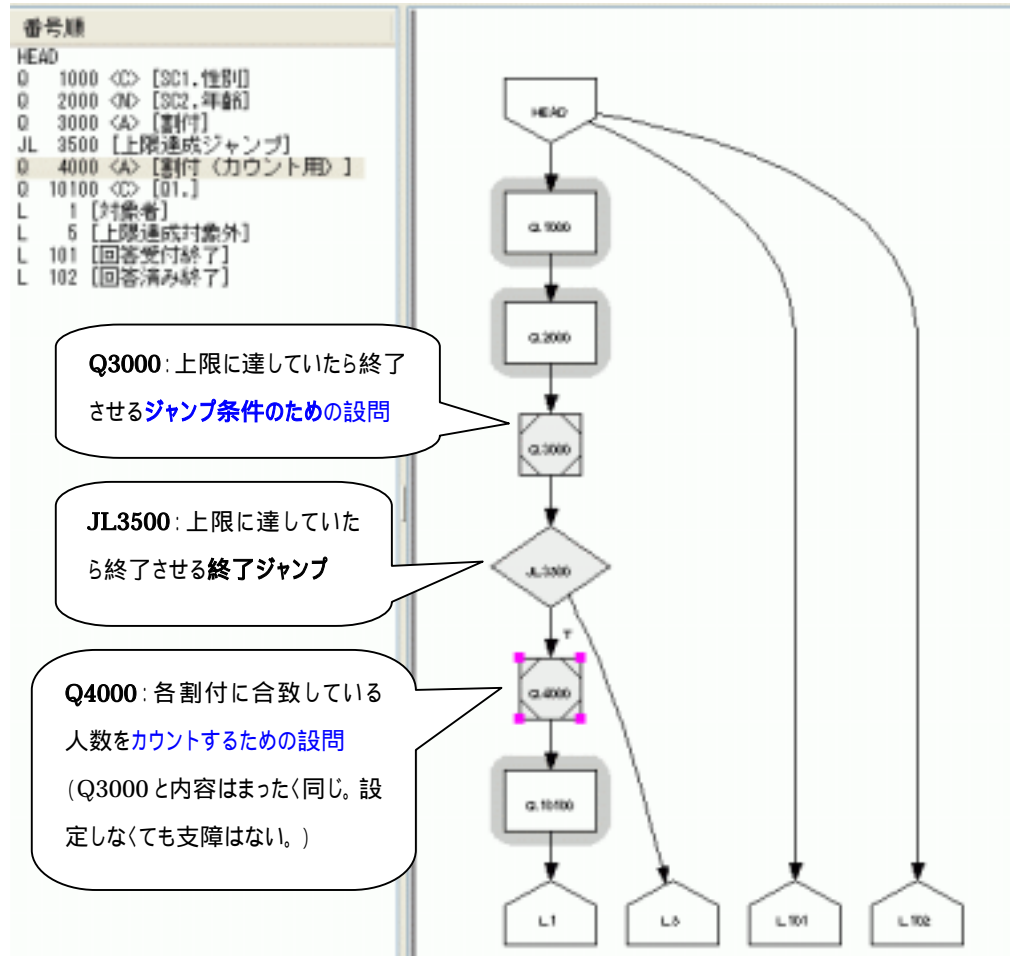


ジャンプ条件での赤枠部分と設問クォータ ID は同じ文字列となります。

- 「C001」と「c001」 アルファベットが大文字と小文字
- 「C001」と「W001」 文字が違う
- 「C001」と「C01」 桁数が違う

などはNGとなりますご注意ください。

ここまでのスペックをフロー図でみてみましょう。



2.で作成した終了ジャンプの後に、Q3000の自動回答設問と同じものをQ4000として作成し、3.の設問クォータの設定のSCRIPT部分をおの自動回答設問の設問番号(Q4000.C[1]);にすることで、クォータオーバーによって終了したものはカウントされないの、クォータ数 = 回収数となります。(3.の設問クォータの設定のSCRIPT部分をQ3000で設定すると、クォータ上限に達しても回収数がカウントされます。)

設問クォータID	名称	回収予定数	クォータ数	回収数	回収率
C001	男20代	10	10	10	100.00
C002	男30代	20	20	1	5.00
C003	男40代	20	20	2	10.00
C004	男50代以上	10	10	10	100.00
C005	女20代	10	10	0	0.00
C006	女30代	20	20	2	10.00
C007	女40代	20	20	2	10.00
C008	女50代以上	10	10	0	0.00

Q4000を参照しているため、10サンプルが回収上限だった場合は10以上のカウントはされない。
 (Q3000を参照している場合は、回収上限に達した後は本調査に進まないが、この回収数にはカウントされ続ける。)

4. テスト回答をする

設定が終了したら、テストを行います。

クォータ数を1などに変更して、設問クォータがカウントされることとクォータが一杯になったときに終了ジャンプが動作するかなどをチェックします。

ORCA 設問クォータの設定

2009年6月4日 初版発行

発行者	株式会社サイズ
発行日	2009年6月4日
連絡先	株式会社サイズ 〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂 1-18-1 渋谷 INCS 7F
電話	03-5459-3817
URL	http://www.cyze.jp/
E-mail	info@cyze.jp

本書の無断複写複製(コピー)は、特定の場合を除き発行者の権利侵害になります。